

SSC 埼玉県障害者社会参加 推進 センターだより

平成 31 年 3 月 30 日 120 号

編集

埼玉県障害者社会参加推進センター

〒330-8522

さいたま市浦和区大原 3-10-1

県障害者交流センター内

TEL 048-825-0707

FAX 048-825-3070

メールアドレス

ssk080321@bz03.plala.or.jp

HPアドレス

http://saitama-shokyo.org/info/

発行

NPO法人埼玉障害者センター

〒330-8522

さいたま市浦和区大原 3-10-1

頒価

一部 100 円(会費に含まれます)

発行日

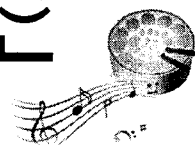
10 日・20 日・30 日

スティールパンサークル

「Colors (カラース)」



埼玉県障害者交流センター
塩原 恵美子
しおばら えみこ



埼玉県では、障害者が芸術・文化面で持つ豊かな力を広く知っていただくため、「埼玉県障害者アートフェスティバル」という取り組みを行なっています。

従来、障害者が行なう芸術・文化活動に対しては、障害を乗り越えて作品を創造するプロセスに注目するという、福祉的な観点から評価されることがほとんどで、芸術面から評価されにくいのが実情です。このフェスティバルは、障害者が創り出す作品そのものの「芸術性」「創造性」にスポットを当て、その社会的評価を高め、将来的には障害者の社会参加や自立に結び付けていくことを目指す取り組みであり、平成 30 年度で 9

回目となりました。音楽・美術・ダンスの部門があり、障害者交流センターでは音楽部門においてこの事業に協力し、平成 28 年度から「スティールパンワークショップ」、29 年度から「打楽器ワークショップ」を開催しています。「打楽器ワークショップ」はこれまで楽器の演奏経験のない初心者向きののに対し、「スティールパンワークショップ」は音楽を通じた表現活動体験をし、高度な技術を



ワークショップの様子



平成 30 年度埼玉県障害者アートフェスティバル
in SONIC での演奏の様子

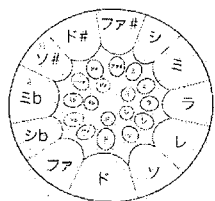
習得する初級・中級者向きのものになっています。どちらのワークショップも、初めは楽器に触れることに緊張した面持ちであつた参加者の多くが、途中からとても楽しそうに、また真剣な表情で演奏し、終了時には「またやりたい!」と笑顔でおっしゃっています。

今回はこの「ステイールパン
ワークシヨップ」の参加者から
生まれたステイールパンバンド
「Colors (カラース)」を
ご紹介します。

「ステイールパン」という楽器

ステイールパンは、ドラム缶
から作られた音階のある打楽器
で、独特の響きを持った音色が
特徴です。カリブ海最南端の島
国トリニダード・トバゴ共和国
で発明されたアコースティック
楽器です。音階がドレミファソ
ラシド…と順番に並んでいない
ので、覚えて演奏するのはとっ
ても難しいんです!!

「Colors」は全員障害者
交流センターの利用者で、ワーク
シヨップに参加したメンバーで
結成され、音楽を通してメンバ



音の並びはこんな感じ♪



指導してくださる
出口雅生先生

それぞれの個性が輝くようにと、
このバンド名が付けました。

メンバーは現在 9 人。ワーク
シヨップの講師である出口雅
生先生の指導のもと、毎週 1
回障害者交流センターの音楽室
で練習を重ねています。レパ
トリの曲も少しずつ増え、埼
玉県障害者アートフェスティバ
ルのイベントや障害者交流セン
ターのイベント(文化・芸術体
験イベントや納涼祭)で演奏し
ています。また、毎年 1 月に彩
の国さいたま芸術劇場で行われ
る「彩の国バリアフリーコン
サート」のステージで、出口先
生率いるステイールパンバンド
「Pele (ペレ)」と一緒に演
奏しています。また、出演の依
頼を受けて、近隣の公民館など
でも演奏しています。

【インタビュー】

平成 30 年度から Colors

に加入した H・K さん(女性)

にインタビューしました! H・

K さんはセンターではスポーツ

の活動も頑張っています。

Q ワークシヨップに参加した

きっかけは?

A メンバーの練習を何度も見

学させてもらい、自分も

ワークシヨップに参加した

いと思いました。

Q ワークシヨップに参加して

みてどうでしたか?

A 学校の部活などで楽器の経

験があったので、ステイ

ールパンも自分にできると思

いました。

Q ワークシヨップのあと、C o

lors に加入して、毎週の

練習もほぼ欠かさず参加し

ているようですね。大変だと

思うことは何ですか?

A 音階の場所を覚えるのが大

変です。

Q 楽しいと思うことは?

A うまくできた時の達成感で

す!

Q 好きな演奏曲は?

A オブラディ・オブラダ♪

Q これからもステイールパン

を続けるのすか?

A ずっと続けたい。仕事やス

ポーツと両立して頑張って

いきたいです!

Colors、H・K さんだ

けでなく、みなさんスポーツや

お仕事、学校もあつて忙しいの

に、バンドの練習に打ち込む姿

は本当に熱心で、その成果を発

表する場であるイベントやコン

サートでの演奏は素晴らしいく、

もつとたくさんの方々聴いて

いただけたらと思っています。

障害者交流センターでも C o

lors の活動に必要な支援を行

ない、見守っていけたらと思

います。

平成三〇年度 社会参加推進事業

「合理的配慮と差別的取り扱いとは何か」講演会

一般社団法人 埼玉県聴覚障害者協会

大内 伸一

7月8日、三郷市立ピアラシ
ティ交流センターにおいて「合
理的配慮と差別的取り扱いとは
何か」をテーマに講演が行われ
ました。

講師は特定非営利活動法人千
葉市視覚障害者協会副理事長の
高梨憲司氏で参加者は77人。2
016年に障害者差別解消法
施行、そして障害者雇用促進法
が改正されましたが「合理的配
慮」についての理解を広めるた
めに何が必要なのかをお話しし
ていただきました。

多数派である障害のない人に
都合のいい社会の中で、障害の
ある人、障害のない人の数が逆
転したらどうなるのか、高梨氏
自身も視覚障害者で、もし目の
見えない人が多数派の社会で自
分が知事になったら、目の見え

る人が「外灯がないと夜歩けな
い」、車いすの人が「駅に身障ト
イレを作ってほしい」と陳情が
来るだろう、多数派を健常者、
少数派を障害者と言っているだ
けで多数派と少数派がひっくり
返っても生活のしづらさを感じ
る人が必ず出てくるということ
を、ユーモアを交えながらわか
りやすくお話しいただきました。

常に生きづらさを感じている
少数派（障害者）が、「誰もが
住みやすい社会」とはどういう
社会なのか、どうしたら少しで
もその社会に近づけるかを一番
良く知っています。障害者に対
する偏見や差別をなくしていく
ために、自らの生きにくさを周
りに発信しながら、誰もが望む
社会づくりに向けた障害当事者
自ら社会貢献活動を行う事が大
切であること。障害のある人、
ない人の建設的な対話を積み重
ねていることが、共生社会の実
現に繋がるという話に、とても
共感できました。

平成30年度生活訓練事業について

公益社団法人埼玉県視覚障害者福祉協会

会長 田口 茂

視覚障害者の社会参加を推
進するためには安全に外出でき
る環境が大切なことと考えてい
ます。そこで一人での外出がで
きるよう歩行訓練士による歩行
訓練事業を実施しています。訓
練を希望する方の目的に合わせ
白杖の使い方、目的地での方向
確認のためのポイントの見つけ
方、危険箇所などを指導します。

また、安全確保のためには
「声かけ」は大きな意義を持ち
ます。埼玉県、熊谷市、熊谷市
社協、JR熊谷駅、秩父鉄道の
皆さんの協力を得て熊谷駅で利
用客にチラシを配り積極的な声
かけを呼びかけました。

外出を促すことを目的に「で
るでるクラブ」と名付けて毎月
1回、季節の移ろいを感じなが
らの公園散策。施設見学では茨
城県自然博物館とビール工場の



見学を実施しま
した。

毎月第3火曜
日にはITに詳
しい技術者を講
師にスマホやブ

レイルメモ、パソコン操作の個人
的相談会を実施しています。最近
ではガラ携帯からスマホに切り
替える方の相談が増えています。

カルチャー講習会は、朗読ボ
ランティア、アマチュア落語家
を招き「朗読と落語をより楽し
む会」を企画し朗読の苦労話、
落語の所作の説明を受け朗読と
落語を演じていただきました。

その他に全国スポーツ大会を
目指し関東ブロック協議会加盟
団体と競い合っているグラウンド
ソフトボール活動。視覚障害者
の治療院開業者やヘルスキー
パー、職場環境、障害者雇用水
増し問題など就労についての課
題を話し合いました。今後も社
会参加を推進する事業を実施し
ていきます。

ITサポートセンター

15年をふりかえって



埼玉県障害者ITサポートセンター（ITSSC）推進員

増田 隆

定年後、ある障害者団体のボランティア活動をしていたご縁から、「埼玉県障害者ITサポートセンター」の推進員の職をお預かりして、15年経ちました。

今年8月には、78歳になりましたので、この春に後継者にバトンタッチさせていただくことにしました。

20数年前、パソコンが普及し始めたころ、視覚や体にご不自由があっても、各種の補助器具やソフトの助けを借りて容易に読み書きができるという声が高まり、埼玉県の他、厚労省や総務省からもご支援をいただいで、「埼玉県障害者ITサポート

センター」を発足させることになりました。

私は家族に障害者がおり、障害者団体のボランティア活動等をしていた事や、以前、勤務先で職場内のパソコンやインターネット導入等を担当した経験もあり、同センター「推進員」の就任を打診され、15年前の2004年（平成16年）この仕事をお引き受け致しました。

その後、関連団体のご支援を得て、パソコン（障害者へのパソコンサポートボランティアの略称）募集や養成講座開催等実施、その翌年4月からNPO埼玉県障害者協議会内で本格的に

始動させることができました。おかげさまで、定年後の60代、70代に新たなことを学ぶ機会をいただき、本当に充実した人生経験を送ることができました。これまでご支援いただきました関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

現在、ITサポートセンターでは眼のご不自由な方を中心にパソコンやインターネットを楽しく学ぶための設備を準備させていただくとともに、ご希望の方にはパソコンがご自宅訪問の上、お手伝いできる制度も充実させています。



<埼玉県障害者社会参加推進事業 埼玉県障害者ITサポートセンター>

場 所：〒330-8522 さいたま市浦和区大原 3-10-1
埼玉県障害者交流センター内

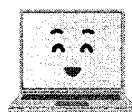
電 話：048-825-2749

メール：smile04529@bz03.plala.or.jp（メールでもお申し込みできます。）

H P：http://www.normanet.ne.jp/~ww100089/it.html

サポート日時：火・木・土 10時～15時

パソコンをお持ちでなくても、触ったことがなくても大丈夫です。
パソコン等の無料貸し出しも行っています。



80歳を過ぎて、視力が低下したので新たに音声ソフトの勉強を始める方もいます。



ご興味のある方、お気軽にお声をおかけください。

平成30年度合同研修旅行に参加して



公益社団法人 日本リウマチ友の会埼玉支部

まつまる
松丸 和子 かずこ



1月27日～28日の一泊研修旅行に参加してきました。場所は栃木県那珂川苑です。7団体20名の参加者でした。那珂川苑送迎バスがセンターまで迎えに来てくれました。

天候に恵まれ予定通りの出発10時40分、途中羽生SAでトイレ休憩をし、昼食は益子焼窯元での美味しい「やしお膳」でした。益子焼のお土産で記念になると思いましたので自分用にお花模様のブローチ、娘用にペンダントを購入しました。

早めに那珂川苑に到着し、お部屋に入る前に全員で会議室に入り、研修会を開きました。20

名全員で、自己紹介、現在の団体での活動報告、要望などを2時間ほど話しあいました。夕食は他の団体やお客様と一緒に食堂での会食です。

2日目も良いお天気です。那珂川苑の従業員の方たちがバスが見えなくなるまで手を振って見送ってくれました。

「有難うございました。楽しかったです。」

道の駅うつのみやろまんちっく村で見学と買い物をしました。新鮮な野菜が沢山ありましたので、栃木産のかぶやニンジンなどを重いほど買ってきました。

そして昼食は宇都宮餃子館です。焼き餃子に、スープ餃子。揚げ餃子と餃子満腹セットでお腹一杯になり満足一杯でした。センター到着は予定通りで3時30分、私達のように障害のある者には無理のないゆったりとした2日間コースでした。

那珂川苑は3月末で閉館との話を聞きました。障害のある

方々が使いやすいように全てが出来ていますので、今後は取り壊しではなくデイサービス施設等に使用されると良いと感じました。

一緒に楽しんできた方々、企画してくださりお世話していただいた方に感謝します。有難うございました。



【加盟団体活動紹介 第六回】

埼玉県心臓病の子どもを守る会

会員相互の助け合いと、各自

治体・教育機関等に対して社会
保障制度及び医療と教育の改善
について働きかけ、心臓病児者
の生活の質の向上を目的として
います。心臓病児者とその家族
がより幸せに生きていくために
学び、友情を育み、自立に向け
て歩めるような様々なイベントを
開催しています。

設立年

昭和39年

会員数

230名

会員対象

埼玉県内にお住まいの方で、家
族または本人が心臓病の方。

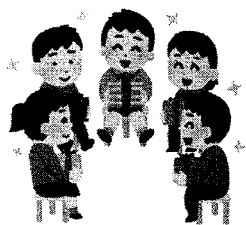
発行会報誌

『心臓を守る（埼玉版）』

年6回発行

『お知らせ版』

年6回発行



ホームページ

<http://www.mm.jp.or.jp/>

HeartBox/

目的

心臓病の子どもを守る会は医
療や保険制度が不十分な時代
に、心臓病児を育てる一人の母
の「わが子の手術ができない」
という訴えがきっかけとなり、
心臓病児の親が集まって発足し
ました。県民一人あたりの医師
数が日本一少ない埼玉県では、
親同士・子ども同士の仲間づく
りとして「学び合い、育ち合
い」を大きな柱にしなが、心
臓病児者が安心して育ち、社会
の中で暮らせるよう、行政への
要望活動にも積極的に取り組ん
でいます。

活動紹介

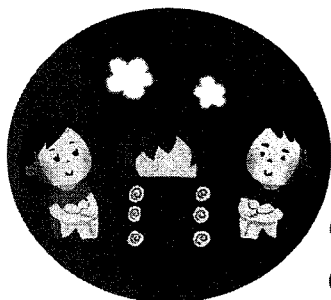
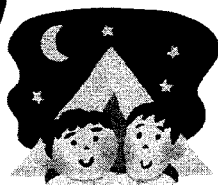
現在、埼玉県内の会員数は2
30人で、県全体としての活動

のほか、地域ごとの支部でも集
まり、会員同士がより身近な関
係を築いています。1年の活動
は、春の総会（医療講演会も開
催）に始まり、就学や学校生活
の悩みを相談する「教育のつど
い」、子ども同士・親同士の絆
が深まる夏のキャンプ、新入会
員のための相談会（既存会員も
参加可）、手品やゲームで盛り
上げるクリスマス会、料理を
作って食べて祝う新年会など、
いつも賑やかに楽しく活動して
います。

一昨年は発足50周年として、
お世話になった先生方をお招き
し、約100人の親子とともに
盛大にお祝いしました。

昨年は、親子でうどん打ちに
挑戦した新年会で始まり、春は
県内産の小麦や野菜、ソーセー
ジを使ったピザづくり教室を開
催。がんばって作った料理を頬
張る子どもたちの可愛らしさは
格別です！医療講演会では、発
達の遅れについて、また、病児

の自立に向けて親たちができ
ることを学びました。夏のキャ
ンプでは医師・看護師・ボラン
ティアさんに助けられ、魚釣り
や川遊び、キャンプファイヤー
を楽しみました。運動制限が
あったり、暑さ・寒さに弱かつ
たりと、普段は心配の多い子ど
もたちが思い切り自然を楽しめ
る機会であり、親にとっては子
どもの成長を感じられる大切な
時間です。11月末には小さな子
も楽しめるクリスマス会を開催
するなど、季節ごとの催しを通
じて会員同士の親交をより深く
確かなものにしていきます。



【加盟団体活動紹介 第七回】

埼玉県精神障害者家族会連合会（のぞみ会）

埼玉県精神障害者家族会連合会は、精神障害者の医療、保健、福祉、就労、所得、人権など生活全般の充実・向上を図ると共に、家族や関係する人が安心して暮らせる社会づくりを目的とする組織です。

設立年

昭和48年

会員数

23家族会

会員対象

埼玉県内の精神障害者家族会

発行会報誌

『のぞみ会だより』（年4回）

6月・9月・12月・3月

ホームページ

準備中

目的と活動紹介

5月25日、平成30年度第45回定期総会で次のような活動方針を採択しました。

・会員の高齢化と親亡き後の心配にたいする改善策を検討し外部へ発信する



・各地域の抱える課題の把握と解決策を探る。

・公共交通費割引制度を精神にも適用運動の継続

・全医療費無料化を手帳2級まで拡大する運動の継続

・研修や交流を通して知恵と力を養いリカバリーを図る：

「家族の力で社会を変える」

この方針をもとに精神科医療の問題、ピアカウンセリング、生活基盤づくりを目指す事業、そのための行政への働きかけなど具体的な活動を進めて行きます。私たちの先輩は、45年前に埼玉県精神障害者を守る会」を設立し、本人の暮らしを守り社会参加を図るために社会資源のない中で共同作業所の立ち上げ・運営に汗を流し、福祉政策を求めて厳しい道のりを歩んできました。平成5年には「埼玉

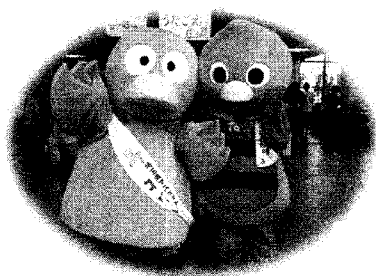
県精神障害者家族会」と改称して、平成7年の法改正では精神障害者福祉手帳制度が成立して遅ればせながら3障害の仲間入りができ、福祉政策の対象になりました。しかし未だに偏見・差別は根強く、障害者間でも医療費制度や、公共交通運賃等に格差があり精神障害者は生きにくい実情があります。精神科医療体制でも長期入院・入院中心傾向は解消されない上、入院患者の身体拘束の増加傾向など人権問題も存在します。引きこもりや病状悪化の危機時には、本来社会的支援があるべきにも拘らず、高齢化した年金生活の家族の多くが当事者の暮らしを担い孤立し苦しんでいる現実があります。このような現状に私たちは「本人も家族もその人らしく元気に生きられるように家族支援」を訴えて活動しています。

10年前から「家族による家族学習会」の活動を推進していきま

す。この学習会は体系的なプログラムに基づいて、精神疾患を患った人の家族が参加者となり、同じ立場の家族が担当者として家族同士の小グループで行い専門家は参加しません。テキストの輪読により病気の正しい知識や情報を学び、家族の体験に基づいた知識や知恵を共有し、家族同士が支え合う場です。

「誰にも言えなかった苦しみを分かってもらえた」体験や同じ悩みや苦しみへの共感、癒しや体験の整理にもつながり、事態にシッカリ向き合うステップになります。参加者と担当者が共に成長し合う学習会でもあります。病気になるたての方の家族や悩んでいる家族に働きかけて進めています。体験者は確実に広がり家族会を元気にしてくれているように思います。

多くの仲間と共感し合い、これからも困難な課題に向き合い関係の方々と連携協力して、ピア（セルフ・ヘルプ）活動を進めていきます。



40周年記念

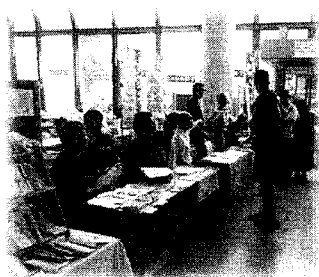


平成 31 年度

第40回埼玉障害者まつり

日時：2019年**10月6日(日)**開催決定!!

沢山の方のお越しをお待ちしております!!



団体、企業、有志の方々のご協力を!!

「完全参加と平等」を謳った国際障害者年（1981 年）の前年から始まった埼玉障害者まつりも皆様のご理解とご支援の中で 40 回目を迎えます。この日を楽しみにしている障害者・ご家族がたくさんいます。企画準備、運営スタッフやボランティアの手配、送迎車の確保等、資金と手間のかかる作業を経て当日を迎えます。運営資金確保のため、皆様方のより一層のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

【障害者まつり問合せ先】 電話・FAX 048-833-7027

【振込先】 郵便振込 口座名 障害者まつり 00160-4-57438

編集後記

障害者交流センター内の団体交流室で働き始めて早一年。ここには、さまざまな障害や難病の団体が集まっています。世の中の一般企業ではあり得ない多様性の中で働くことで、「共生社会」というものが当たり前だと感じる自分を発見。団体が違っていても皆親しくなっていて、互いに協力しながら楽しく仕事をしています。

(宮野)